

# 益田岩船

～飛鳥を代表する「謎」の大型石造物の一つ～

資料番号

A1

初版：2025.11.8

## 目次

1. おすすめポイント
2. 現地の説明板
3. 現地写真
4. アクセス

同じ岩！



## 1. おすすめポイント

### ★とてつもない“違和感”

山を登ってゆくと“忽然と”現れる巨石！

ガイドブックで見るのと全然違う！（第一印象）

なんでこんなところに突然こんな巨石！？

### ★飛鳥時代の石工の仕事の“痕跡”

側面に見える格子状の溝、効率良く巨石の形を整えるための石工の工夫が伺えます

### ★これは“何？”

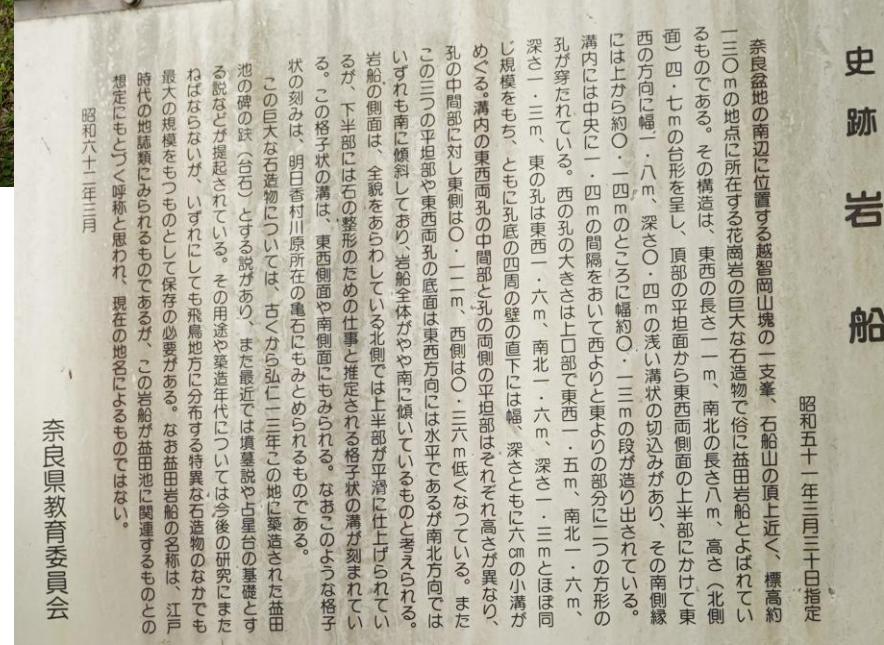
昔から諸説あります。みなさんはどう思います？

## 2. 現地の説明板

登り口にある説明板

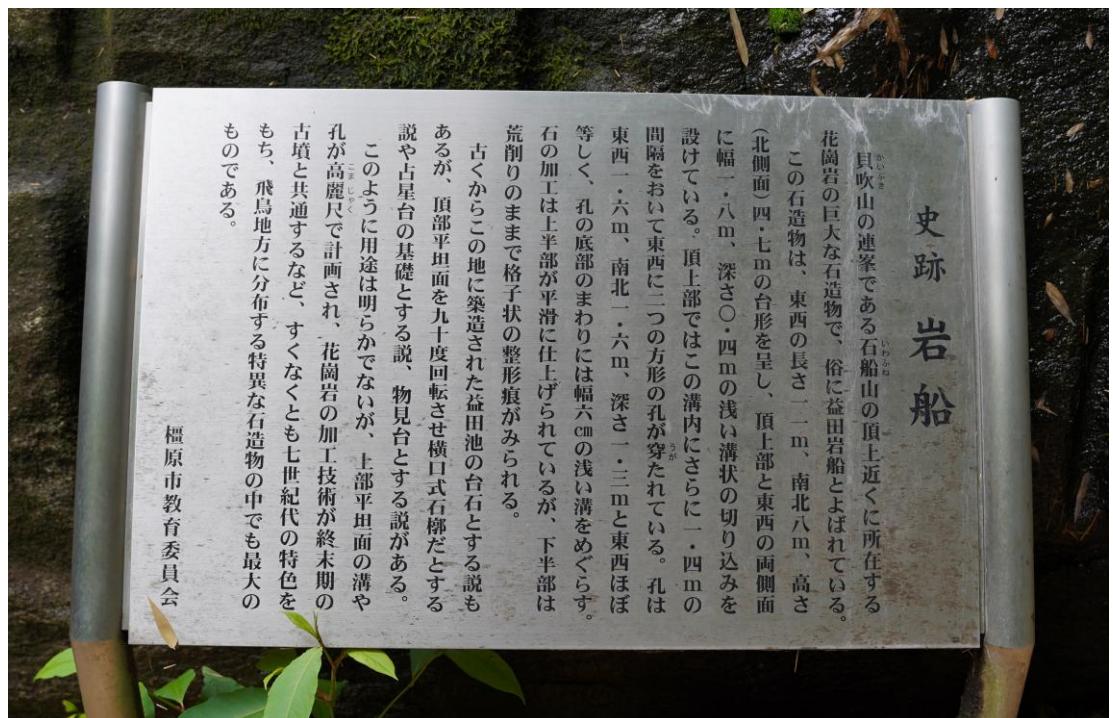


2-1



2-2

説明板拡大



► 岩船のそばにある説明板

2-3

### 3. 現地写真

2020.7.7



3-1

登ってゆくと竹林の中に忽然と現れる巨石！



3-2

これが良くガイドブックで見る「益田の岩船」

東

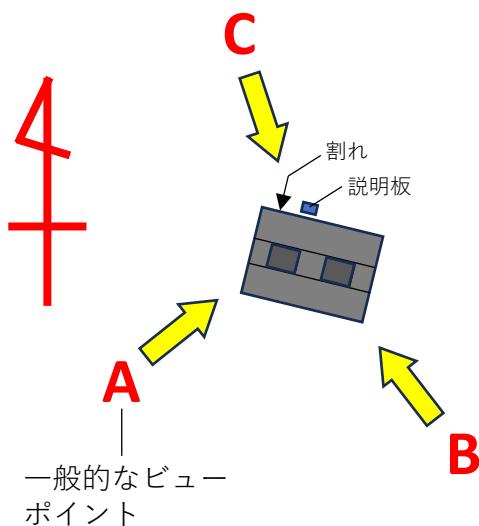
西



3-3 矢視C

斜めに走る割れ目の端から水が漏れています（苔むしている）穴に溜まった雨水の水位を見ると明らかに西側の方が東側より低くなっていました。割れによる漏水と思われます

2室の横口式石槻を作ろうとして途上で割れに気づき、放置されたとの説が有力のようです  
諸説あります・・・



### 管理人のつぶやき

このロケーション、この姿（加工前）・・・  
吉備にあれば間違いなく磐座として祀られた  
と思います。弥生期、この地ではどうだった  
のでしょうか？

際立った高度な加工技術、造形のバリエーションを見せる飛鳥の石造物遺跡を見るにつけ、飛鳥人（びと）にとって岩や石はどちらかというと“加工してこそ価値が出る”「材料」としての見方が強かったのかなと感じます。



3-4 矢視A



3-5 矢視B



3-6



3-7



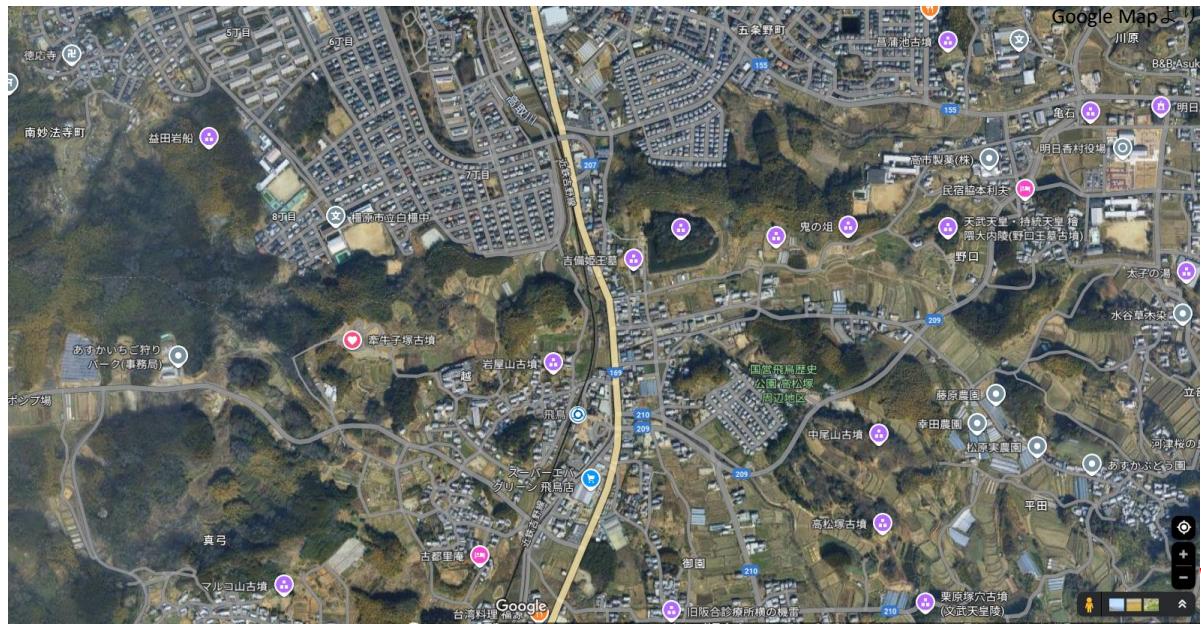
3-9

当時の石工の仕事跡！！



3-8

## 4. アクセス



4

同じ範囲

